

令和3年度第1回デ活シンポジウム

「プロジェクト最終年度のデ活が伝えたいこと（その1）」

日時：令和3年7月2日（金）15:00～17:00

場所：Web 開催

あいさつ

福田 和樹（文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室長）

本日のシンポジウムのテーマは「プロジェクト最終年度のデ活が伝えたいこと」です。分かりやすい表現ではありますが、改めて立ち止まり、このようなことを整理するのは大変意義のあることだと考えています。

以前にもこのシンポジウムで述べたことがあります。この数カ月の間にも、デ活やデータのデジタル化を巡ってはさまざまな進展が見られました。ご承知のとおり、デジタル庁設置に向けた法改正がなされた他、他省庁ではありますが内閣府防災担当においては、新たな防災施策の在り方に関する提言ということで、防災・減災、国土強靱化新時代の実現のため、デジタル・防災技術に関するワーキンググループが設けられ、中身の濃い提言が出されています。政府全体においてもデジタル化をリードする分野として防災への期待は非常に高く、文部科学省としても、デ活を含む本事業の成果をさまざまな形で次の取り組みにつなげていきたいと考えています。

政府の中では、平井大臣がデジタル化のリーダーシップを執っておられます。大臣がよくおっしゃることとして、デジタル化についてはその手段と目的の関係が、どちらが先なのかということも含めて非常に難しいという指摘がよく聞かれています。今後、デ活の成果を取りまとめていく際にも、改めて、何が目的で何が手段だったのかということについて、さまざまな立場の方々に理解していただけるような整理ができるよう、引き続き皆さまのご尽力、ご支援を頂ければと考えています。本日はどうぞよろしくお願い致します。

（司会：下村） ありがとうございます。文部科学省研究開発局、地震・防災研究課防災科学技術推進室、福田室長からごあいさつを頂きました。平田先生、文部科学省からの助成金によってここまで進んできた本プロジェクトも、いよいよあと1年となりました。このタイミングでデジタル庁が設置されるというのは、これまで4、5年かけてやるべきことを整えてきた感じがありますね。

（総括：平田） はい。デジタル化には手段と目的の両方があるという、大変示唆に富むごあいさつだったと思います。実は本日はそのことについても十分議論していきたいと思っています。